

2017年度 審判員研修会に代わるレポート課題

ライフセービング競技規則(2016年版)、審判マニュアル、認定審判員規定などを参考にお答え下さい。

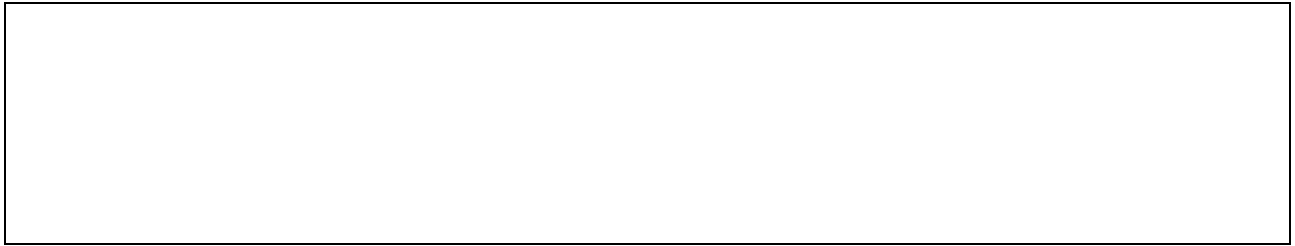
I. 以下の設問について、競技規則や各種規定に照らして間違っているところを指摘し、その根拠となる理由を書きなさい。

- ① Aクラブはあらかじめ、オーシャン競技用キャップとプール競技用キャップの両方を登録している。それらの色/パターン/デザインは異なっている。プール競技の競技大会において、プール競技用のキャップが1つ足りなかったため、登録済みのオーシャン競技用のキャップと併用して出場した。

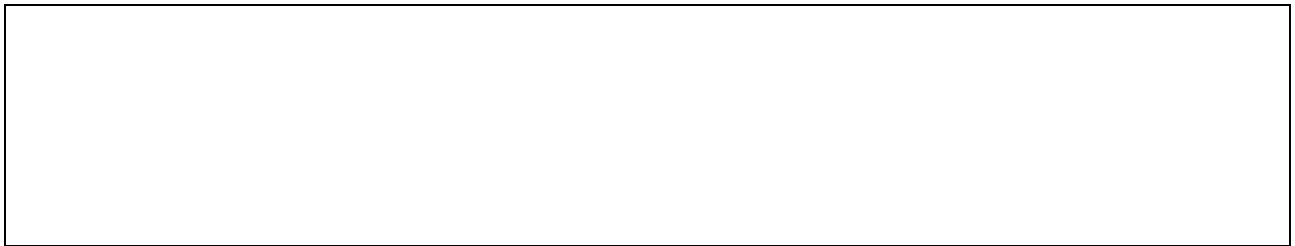
- ② プール競技におけるマネキン・ハンドラーは、同一クラブの競技者の中から選出されなければならない。ただし出場確認時までにチーフレフリーが特別に認めた場合、競技者以外からマネキン・ハンドラーを選出することができる。

- ③ プール競技において、レスキューチューブを用いてマネキンを引っ張る(トウ)場合、競技者の頭頂部が5mラインを越える前に、レスキューチューブをマネキンに正しく巻き付けなければならない。

- ④ 12.5m ラインスローのスタートの姿勢において、溺者役および傷病者役は、クロスバーの救助者側で水中に位置し、スタート前にクロスバーの中央部とスローラインの両方を掴み(片手または両手)静止する。



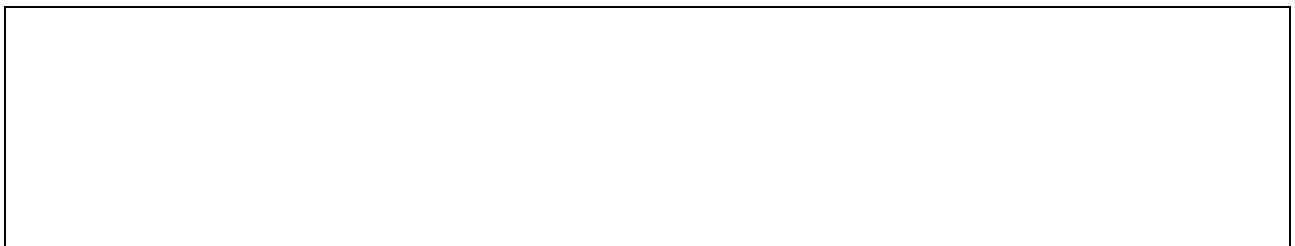
- ⑤ 4×25m マネキンリレーの第3競技者から第4競技者へのマネキン手渡しにおいて、第4競技者がマネキンに手を触れる前に第3競技者の手が両方ともマネキンから離れても、チェンジオーバーゾーン内に留まっている第1競技者がその間マネキンを支えるなどして、常に誰かの手がマネキンに触れていれば問題ない。



- ⑥ 4×50m メドレーリレーにおいて、第2競技者はフィンをつけてスタート台からスタートし、50m 潜行しなければならない。



- ⑦ 波や潮流がほとんど無い、やや遠浅なコンディションの競技会場において、午前中の干潮時にボードレスキュー予選に向けて、膝の深さから約 120m 沖にスイミングブイを設置した。続くボードレスキュー決勝は午後の満潮時に行われることになっていることから、スイミングブイの位置は浜からの距離を予選と同じにするため、再度満潮時の膝の深さから約 120m の位置に設置し直さなければならない。



- ⑧ レスキューチューブレスキューにおいて、アシスタントは、スタート前にスタートラインを越えても良いが、救助者がスタートしたらすぐに、スタートラインの浜側および指定されたコースからスタートラインを越えて海に入って良い。

- ⑨ ビーチフラッグスのコース決めの抽選は、次のラウンドに進むまで行なわない。ただし、決勝のみ各ヒートで競技者が8名以下になった場合、各ランスルーの後にコース決めの抽選を行なう。

- ⑩ ビーチスプリントにおけるコースの幅は、可能であれば1.6m、最低でも1.3mとする。

- ⑪ ビーチリレーの競技で、バトンの引継ぎの際にバトンを落とした時は、受け取る側の競技者がバトン拾ってはならない。

- ⑫ オーシャンマンリレー／オーシャンウーマンリレーにおいて、サーフスキー区間の競技者はスキーコースブイ3つのみ回れば良いので、関係のないスイミングブイのブイとブイの間を通過した。

- ⑬ 主催団体が特別に認めた場合を除き、コンペティター・リエゾン・オフィサーは認定審判員資格を取得している者がその任務にあたる。その為、コンペティター・リエゾン・オフィサーも競技者の失格を通告することができる。

Ⅱ. 以下の設問について、記述または説明をなさい。

- ① 競技役員規範を4つ挙げよ。

- ② 認定審判員の種別のうち、【A級認定審判員】及び【B級認定審判員】の定義について、記述せよ。

【A級認定審判員】

【B級認定審判員】

※レポート作成お疲れ様でした。最後に、ご意見、ご提案、質問等ございましたらご記入ください。

--

氏 名	
JLA 個人会員番号	
審判員種別	S級 ・ A級 ・ B級 ・ C級
審判員資格番号	
所属クラブ	